

日本アイソトープ協会の学術活動

平成18年度

発行 社団法人 日本アイソトープ協会

目 次

1. 会員	
1.1 会員数の推移（会員種別、年度別）	1
1.2 所属部会別会員数（法人、賛助含む）	1
1.3 年齢階層別会員数（個人正会員のみ）	1
2. 部会・委員会	2
2.1 理工学部会	2
2.1.1 概要	2
2.1.2 第21期理工学部会	2
2.2 ライフサイエンス部会	4
2.2.1 概要	4
2.2.2 第21期ライフサイエンス部会	4
2.3 医学・薬学部会	7
2.3.1 概要	7
2.3.2 第21期医学・薬学部会	7
2.4 放射線取扱主任者部会	12
2.4.1 概要	12
2.4.2 第24期放射線取扱主任者部会	12
2.5 その他の委員会	15
2.6 講演会・見学会等	17
2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会	17
2.6.2 放射線取扱主任者部会	19
2.6.3 NMCC共同利用委員会	20
3. 第43回アイソトープ・放射線研究発表会	21
4. C-J-K Congress	21
5. 講習会	22
5.1 文部科学省・厚生労働省登録講習	22
5.1.1 第1種放射線取扱主任者講習	22
5.1.2 第3種放射線取扱主任者講習	22
5.1.3 放射線取扱主任者定期講習	23
5.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習	24
5.2 その他講習会	24
5.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会	24
5.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会	24
5.2.3 密封線源安全取扱講習会	24
5.2.4 第1種主任者育成講習会	25
5.2.5 第2種主任者育成講習会	25
5.3 放射線滅菌等に関する研修	25

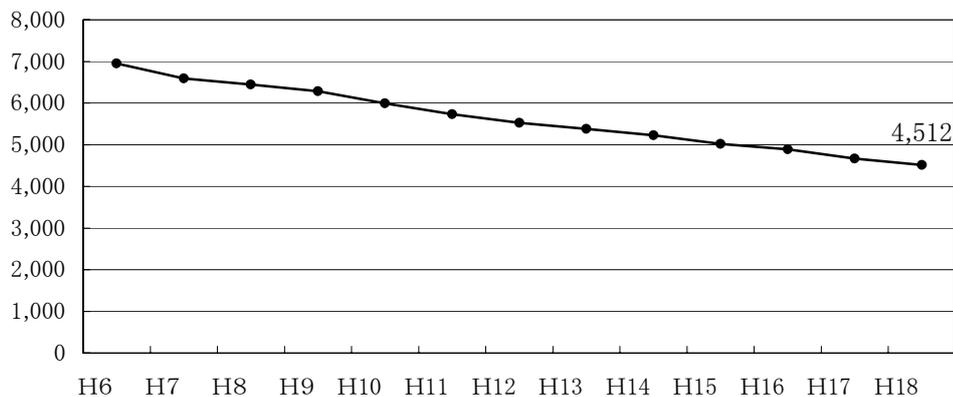
5.3.1	微生物取扱技術基本コース	25
6.	図書等の発行	26
6.1	機関誌	26
6.1.1	Isotope News	26
6.1.2	RADIOISOTOPES	26
6.2	出版物等	27
7.	受託研究等	28
7.1	受託研究	28
7.1.1	文部科学省原子力利用安全対策等委託業務	28
7.2	受託試験	28
7.2.1	放射線照射	28
7.2.2	微生物試験	28
8.	共同利用	28
8.1	仁科記念サイクロトロンセンター共同利用	28
8.2	甲賀研究所放射線照射施設共同利用	28
9.	普及・啓発	29
9.1	第10回（2006年）RADIOISOTOPES誌論文奨励賞	29
9.2	滝沢研究所	29
9.2.1	第16回滝沢研究所施設公開	29
9.2.2	武見記念館	29
9.2.3	滝沢研究所研究助成金	29
9.3	甲賀研究所	29
9.3.1	施設見学	29
9.4	第47回「科学技術週間」施設公開	29
9.5	第43回「原子力の日」施設公開	29
10.	図書室の活動	30
10.1	新規収蔵図書	30
10.2	収蔵定期刊行物	35
11.	事務局組織	36
資料	部会活動の経過及び成果公表資料	37
1.	理工学部会	37
2.	ライフサイエンス部会	42
3.	医学・薬学部会	44
4.	放射線取扱主任者部会	50

1. 会員

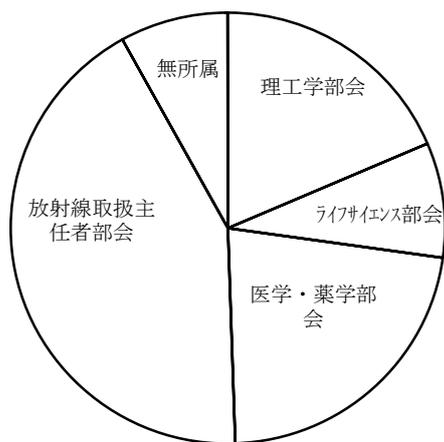
1.1. 会員数の推移（会員種別、年度別）（各年度3月末日現在）

区分	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
個人正会員	6,652	6,268	6,112	5,950	5,679	5,423	5,216	4,860	4,685	4,474	4,307	4,100	3,914
法人正会員	261	266	273	275	265	261	265	270	259	249	242	234	239
特別会員								206	233	252	304	293	325
賛助会員	37	56	59	58	52	48	47	47	46	41	39	37	34
計	6,950	6,590	6,444	6,283	5,996	5,732	5,528	5,383	5,223	5,016	4,892	4,664	4,512

会員数の推移(法人、賛助含む)



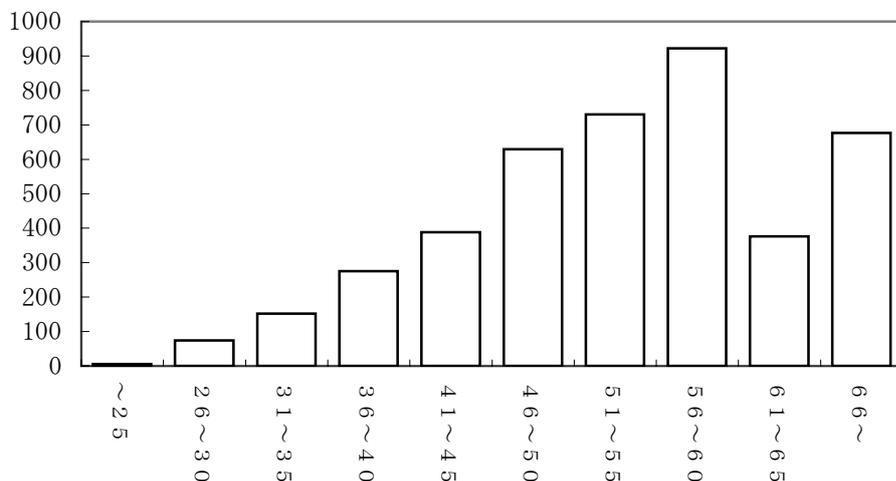
1.2. 所属部会別会員数（法人、賛助含む）（平成19年3月末日現在）



理工学部会	1,338
ライフサイエンス部会	612
医学・薬学部会	1,575
放射線取扱主任者部会	3,039
無所属	579
延 計	7,143

(注) 会員は複数の部会に所属できる

1.3. 年齢階層別会員数（個人正会員・特別会員）（平成19年3月末日現在）



2. 部会・委員会

2.1 理工学部会

2.1.1 概要

理工学部会ではアイソトープの理工学分野への利用に関する調査研究や部会員相互の研究連絡ならびに技術の向上に資するため、講演会、勉強会、見学会などを行なうとともに、必要に応じ専門委員会を設けて、所要の調査・研究活動を実施しています。

2.1.2 第21期理工学部会（任期：平成18年6月～平成20年5月）の構成

常任委員会		
理工学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	森 千鶴夫	愛知工業大学工学部
副部会長	今泉 洋	新潟大学自然科学系（工学部）
	鷺尾 方一	早稲田大学理工学術院総合研究所
常任委員	井口 哲夫	名古屋大学大学院工学研究科
	石橋 得至	横河電機(株)
	大石 晃嗣	清水建設(株)技術研究所
	小原 祥裕	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	小林 久夫	立教大学名誉教授
	小村 和久	金沢大学自然計測応用研究センター
	後藤 彰	(独)理化学研究所仁科加速器研究センター
	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	白川 芳幸	(独)放射線医学総合研究所
	高橋 浩之	東京大学大学院工学系研究科
	田川 精一	大阪大学産業科学研究所
	桧野 良穂	(独)産業技術総合研究所
	藤浪 眞紀	千葉大学大学院工学研究科
	松原 昌平	アロカ(株)
	山本 匡吾	帝国ピストンリング(株)
	吉田 真	(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター

放射線防護機器専門委員会		
放射線施設における放射線防護用設備・機器の適切な使用に資するため、「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集し利用者の便に供する。		
委員長	桧野 良穂	(独)産業技術総合研究所
委員	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	瀧上 誠	元東京慈恵会医科大学
	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
	廿日岩 敏文	(株)千代田テクノル
	松原 昌平	アロカ(株)
	武藤 利雄	(独)東京都立産業技術研究センター

*) 所属は平成19年3月末日現在

超低レベル放射能測定専門委員会

通常の放射線計測技術では測定が困難なあるいは検出が不可能な極微弱放射能の測定の重要性が増している現状を認識し、超低レベル放射能測定技術の発展と展望を探るために調査・検討を行う。

委員長	小村 和久	金沢大学自然計測応用研究センター
委員	青山 道夫	気象庁気象研究所
	秋山 正和	(財)日本分析センター
	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
	大塚 良仁	(財)環境科学技術研究所
	大西 勝基	福井県原子力環境監視センター
	櫻井 敬久	山形大学理学部
	篠原 伸夫	(独)日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究部門

中性子イメージング専門委員会

中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行う。また、中性子ラジオグラフィの技術の向上、普及に資するよう「中性子イメージング技術の基礎と応用」とした連載講座を企画する。

委員長	小林 久夫	立教大学名誉教授
委員	池田 泰	(財)ファインセラミックスセンター材料技術研究所
	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
	川端 祐司	京都大学原子炉実験所
	鬼柳 善明	北海道大学大学院工学研究科
	竹中 信幸	神戸大学大学院工学研究科
	玉置 昌義	名古屋大学大学院工学研究科
	松林 政仁	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	持木 幸一	武蔵工業大学工学部

2.2 ライフサイエンス部会

2.2.1 概要

ライフサイエンス部会では、アイソトープのライフサイエンス分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを各専門委員会を中心に実施しています。

2.2.2 第21期ライフサイエンス部会（任期：平成18年6月～平成20年5月）の構成

常任委員会		
ライフサイエンス分野におけるR I・放射線の利用推進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	唐木 英明	東京大学名誉教授
副部会長	小島 周二	東京理科大学薬学部
	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
常任委員	東 順一	京都大学大学院農学研究科
	井尻 憲一	東京大学アイソトープ総合センター
	稲波 修	北海道大学大学院獣医学研究科
	大森 正之	埼玉大学大学院理工学研究科
	梶原 正宏	明治薬科大学薬学部
	久米 民和	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	白岩 善博	筑波大学大学院生命環境科学研究科
	高橋 千太郎	(独)放射線医学総合研究所
	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	林 徹	(独)農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
	山川 武夫	九州大学大学院農学研究院
	米山 忠克	東京大学大学院農学生命科学研究科

企画専門委員会		
ライフサイエンス部会の活動全般にわたる企画・立案、調整・運営について検討し、常任委員会に意見具申する。		
委員長	白岩 善博	筑波大学大学院生命環境科学研究科
委員	笠井 清美	(独)放射線医学総合研究所
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	佐々木 徹	(財)東京都高齢者研究・福祉振興財団東京都老人総合研究所
	竹島 一仁	名古屋大学アイソトープ総合センター
	塚田 祥文	(財)環境科学技術研究所
	都筑 幹夫	東京薬科大学生命科学部
	丹生谷 博	東京農工大学遺伝子実験施設
	星野 洪郎	群馬大学大学院医学系研究科
	柳沢 啓	(独)放射線医学総合研究所

アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会

主にライフサイエンス分野の研究活動を促進するため、アイソトープをトレーサとして用いる研究用（一部教育用も含む）の機器について情報を収集し、研究者に対し広く知らせるための諸活動を行う。

委員長	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
委員	土井 妙子	(独)国立環境研究所
	野川 憲夫	東京大学アイソトープ総合センター
	平石 佳之	アロカ(株)
	堀江 正信	東京薬科大学薬学部
	松江 秀明	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	吉田 聡	(独)放射線医学総合研究所

安定同位元素専門委員会

安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。

委員長	梶原 正宏	明治薬科大学薬学部
委員	足立 恭子	(株)海洋バイオテクノロジー研究所
	上垣 隆一	(独)農業環境技術研究所
	風早 康平	(独)産業技術総合研究所
	高取 和彦	明治薬科大学薬学部
	中田 浩二	東京慈恵会医科大学附属柏病院
	濱 健夫	筑波大学大学院生命環境科学研究科
	村岡 研一	昭光通商(株)
	米山 忠克	東京大学大学院農学生命科学研究科

薬学・薬理学研究専門委員会

薬学・薬理学研究分野におけるアイソトープ利用の促進を図るための諸活動を行う。

委員長	小島 周二	東京理科大学薬学部
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	金子 実	東京理科大学環境保全センター
	佐々木 徹	(財)東京都高齢者研究・福祉振興財団東京都老人総合研究所
	杉山 英男	国立保健医療科学院
	堀江 正信	東京薬科大学薬学部
	三原 隆一	味の素(株)医薬カンパニー

獣医核医学専門委員会

伴侶動物への核医学診療における諸問題を検討する。

委員長	唐木 英明	東京大学名誉教授
委員	伊藤 伸彦	北里大学獣医畜産学部
	井上登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	大森 伸男	(社)日本獣医師会
	佐々木伸雄	東京大学大学院農学生命科学研究科
	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	下田 実	東京農工大学農学部
	山口 一郎	国立保健医療科学院

食品照射専門委員会

食品照射についての内外の情報を集め、調査・検討を行う。

委員長	林 徹	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
委員	上野山直樹	(社) 日本原子力産業協会
	久米 民和	(独) 日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	小林 泰彦	(独) 日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
	関口 正之	(独) 東京都立産業技術研究センター
	高橋 和良	全日本スパイス協会
	多田 幹郎	中国学園大学現代生活学部
	等々力節子	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所
	古田 雅一	大阪府立大学大学院理学系研究科
	宮原 誠	国立医薬品食品衛生研究所

2.3 医学・薬学部会

2.3.1 概要

医学・薬学部会では、アイソトープの医学、薬学分野への利用に伴う諸問題の調査研究、審議検討、連絡調整などを専門委員会を中心に実施しています。

2.3.2 第21期医学・薬学部会（任期：平成18年6月～平成20年5月）の構成

常任委員会		
医学・薬学分野におけるR I・放射線の利用促進を図るため、専門委員会を中心に部会活動を効果的に運営する。		
部会長	利波 紀久	富山県済生会富山病院
副部会長	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
常任委員	山下 孝	癌研有明病院
	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所
	油野 民雄	旭川医科大学
	家入蒼生夫	獨協医科大学
	井上登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	遠藤 啓吾	群馬大学大学院医学系研究科
	菅野 巖	(独)放射線医学総合研究所
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	古賀 佑彦	(財)原子力安全研究協会
	小西 淳二	公立小浜病院
	佐々木康人	国際医療福祉大学
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	辻井 博彦	(独)放射線医学総合研究所
中條 政敬	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科	
西村 恒彦	京都府立医科大学	
福田 寛	東北大学加齢医学研究所	
藤田 透	京都大学医学部附属病院	
本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター	
前田 稔	九州大学大学院薬学研究院	

企画専門委員会		
部会活動の見直しと活性化を図るため企画、立案、調整を行う。		
委員長	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
副委員長	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
委員	尾川 浩一	法政大学工学部
	織内 昇	群馬大学大学院医学系研究科
	木下富士美	千葉県がんセンター
	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	小泉 満	(独)放射線医学総合研究所
	中嶋 憲一	金沢大学大学院医学系研究科
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	藤井 博史	国立がんセンター東病院

核医学イメージング・検査技術専門委員会

①核医学イメージング技術水準の向上に資するため、イメージングの規格化に関する検討を行う。

②核医学検査技術の向上と核医学機器の安全管理に関する調査・検討を行う。

委員長	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
副委員長	福喜多博義	国立がんセンター中央病院
委員	飯田 恭人	東京大学医学部附属病院
	大西 英雄	県立広島大学大学院総合学術研究科
	金谷 信一	東京女子医科大学病院
	木田 哲生	滋賀医科大学医学部附属病院
	篠原 広行	首都大学東京健康福祉学部
	松田 博史	埼玉医科大学病院
	丸野 広大	虎の門病院
	村山 秀雄	(独)放射線医学総合研究所
	山田 正人	金沢大学医学部附属病院
	渡辺 俊明	公立昭和病院

インビトロテスト専門委員会

免疫アッセイ検査を含むR I インビトロ検査の精度管理の向上を図り、かつ、利用促進に関する検討を行う。

委員長	家入蒼生夫	獨協医科大学
委員	池田 斉	埼玉医科大学総合医療センター
	市原 清志	山口大学医学部
	小田桐恵美	東京女子医科大学
	亀子 光明	長野市民病院
	桑 克彦	筑波大学大学院人間総合科学研究科
	紫芝 良昌	三宿病院
	竹岡 啓子	大阪大学医学部附属病院
	武田 京子	聖路加国際病院

放射性医薬品専門委員会

放射性医薬品の利用促進と施設内取扱いに関する検討を行う。

委員長	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	井上 修	大阪大学大学院医学系研究科
	木下富士美	千葉県がんセンター
	窪田 和雄	国立国際医療センター
	鈴木 和年	(独)放射線医学総合研究所
	中村 豊	神奈川県立がんセンター
	藤林 靖久	福井大学高エネルギー医学研究センター
	前田 稔	九州大学大学院薬学研究院
	間賀田泰寛	浜松医科大学光量子医学研究センター
	安原 真人	東京医科歯科大学医学部附属病院

放射性医薬品安全性専門委員会

放射性医薬品の安全性確保に資するため、放射性医薬品副作用事例等の調査・検討を行う。

委員長	日下部きよ子	東京女子医科大学
委員	荒野 泰	千葉大学大学院薬学研究院
	岡村 光英	大阪府済生会中津病院
	笠木 寛治	高松赤十字病院
	駒谷 昭夫	山形大学医学部
	松田 博史	埼玉医科大学病院
	丸野 広大	虎の門病院

ポジトロン核医学利用専門委員会

ポジトロン放出核種による放射性薬剤の成熟技術・成熟薬剤の認定と指針の作成を行い、PET検査の臨床利用に関する検討を行う。

委員長	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所
副委員長	井上登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
委員	伊藤 健吾	国立長寿医療センター研究所
	宇野 公一	西台クリニック
	菅野 巖	(独)放射線医学総合研究所
	桑原 康雄	福岡大学病院
	鈴木 和年	(独)放射線医学総合研究所
	千田 道雄	先端医療センター
	玉木 長良	北海道大学大学院医学研究科
	福田 寛	東北大学加齢医学研究所
	藤林 靖久	福井大学高エネルギー医学研究センター

医療放射線管理専門委員会

核医学検査等における放射線管理に関する検討を行う。

委員長	古賀 佑彦	(財)原子力安全研究協会
副委員長	菊地 透	自治医科大学RIセンター
委員	井上登美夫	横浜市立大学大学院医学研究科
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	山口 一郎	国立保健医療科学院
	山下 孝	癌研有明病院

放射線治療専門委員会

密封線源等による放射線治療に関する検討を行う。

委員長	山下 孝	癌研有明病院
委員	井上 武宏	大阪大学大学院医学系研究科
	渋谷 均	東京医科歯科大学医学部
	土器屋卓志	埼玉医科大学
	西村 哲夫	静岡県立静岡がんセンター
	晴山 雅人	札幌医科大学

放射性医薬品の臨床評価専門委員会

放射性医薬品の開発を推進するため、放射性医薬品の臨床評価のためのガイドライン作成に向けた検討を行う。

委員長	油野 民雄	旭川医科大学
委員	日下部きよ子	東京女子医科大学
	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	中村佳代子	慶應義塾大学医学部
	西村 重敬	埼玉医科大学心臓病センター
	橋川 一雄	国立病院機構大阪南医療センター
	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
	間賀田泰寛	浜松医科大学光量子医学研究センター

全国核医学診療実態調査専門委員会

5年毎に全国的な「核医学診療実態調査」を実施しており、平成19年6月に第6回調査の実施を予定している。

委員長	小泉 潔	東京医科大学八王子医療センター
副委員長	桑原 康雄	福岡大学病院
委員	牛嶋 陽	京都府立医科大学
	絹谷 清剛	金沢大学大学院医学系研究科
	木之村重男	東北大学加齢医学研究所
	菅 一能	セントヒル病院
	竹岡 啓子	大阪大学医学部附属病院
	武田 徹	筑波大学大学院人間科学研究科
	外山 宏	藤田保健衛生大学
	新尾 泰男	帝京大学ちば総合医療センター
	西山 佳宏	香川大学医学部
	村上 康二	獨協医科大学
	森田 浩一	北海道大学大学院医学研究科

アイソトープ内用療法専門委員会

アイソトープの内用療法を効果的に推進するため、医療安全の確保を図る適正使用のガイドライン等の作成に資する検討を行う。

委員長	遠藤 啓吾	群馬大学大学院医学系研究科
委員	油野 民雄	旭川医科大学
	江口 研二	東海大学医学部
	岡本真一郎	慶應義塾大学医学部
	小椋美知則	名古屋第二赤十字病院
	絹谷 清剛	金沢大学大学院医学系研究科
	日下部きよ子	東京女子医科大学
	久保 敦司	慶應義塾大学医学部
	佐治 英郎	京都大学大学院薬学研究科
	飛内 賢正	国立がんセンター中央病院
	成田 浩人	東京慈恵会医科大学附属病院
	細野 眞	近畿大学高度先端総合医療センター
	山口 一郎	国立保健医療科学院
	山下 孝	癌研有明病院
	池渕 秀治	(社)日本アイソトープ協会
	中村 吉秀	(社)日本アイソトープ協会

2.4 放射線取扱主任者部会

2.4.1 概要

放射線取扱主任者部会では、放射性同位元素等の安全取扱、管理に関する知識・技術の向上と普及を図り、放射線障害の防止と放射線取扱主任者等の地位向上に寄与するための諸活動を実施しています。

2.4.2 第24期放射線取扱主任者部会（任期：平成18年6月～平成20年5月）の構成

本部運営委員会			
部会の代表組織として、部会長、副部会長を補佐し、部務の重要事項について審議し、部会を運営するとともに支部間の連絡調整を行う。			
部会長	片田 元己	首都大学東京大学院理工学研究科	
副部会長	菊地 透	自治医科大学RIセンター	
	斎藤 直	大阪大学ラジオアイソトープ総合センター	
本部運営委員	関 興一	北海道大学アイソトープ総合センター	
	馬場 護	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	
	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科	
	安達 興一	名古屋大学医学部アイソトープセンター	
	豊田 亘博	(株)千代田テクノル	
	山田 雅夫	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	
	松田 尚樹	長崎大学先端生命科学研究支援センター	
	宮越 順二	弘前大学医学部保健学科	
	伊丹 純	国立国際医療センター	

【支部組織】

各支部は、放射線取扱主任者部会規定の目的に則り、統括する地域の部会員を対象に支部活動を行う。

北海道支部委員会			
支部長	関 興一	北海道大学アイソトープ総合センター	
委員	大倉 一枝	北海道医療大学薬学部	
	桑原 幹典	北海道大学大学院獣医学研究科	
	紺谷 修二	北海道電力(株)原子力部	
	林 正信	酪農学園大学獣医学科	

東北支部委員会			
支部長	馬場 護	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	
委員	伊藤 重	東北電力(株)原子力部	
	瀧田 昭久	日本原燃(株)安全技術室	
	十和田 誠	岩手医科大学共同研究部門	
	武山 久志	(株)千代田テクノル仙台営業所	

関東支部委員会

支 部 長	野村 貴美	東京大学大学院工学系研究科
委 員	浅野 善江	(独)日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所
	浅見 文克	(株)千代田テクノル
	奥野 功一	(株)間組技術研究所
	掛村 隆三	(株)イング
	加藤 真介	横浜薬科大学生命科学分野
	金子 孝夫	(財)東京都老人総合研究所
	杉山 芳徳	全国検査サービス(株)
	土井 妙子	(独)国立環境研究所
	富田 悟	東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター
	本田 憲業	埼玉医科大学総合医療センター
	山田 孝一	アロカ(株)

中部支部委員会

支 部 長	安達 興一	名古屋大学医学部アイソトープセンター
委 員	石原 正司	名古屋市立大学大学院医学研究科
	加藤 透	トヨタ自動車(株)
	河野 孝央	核融合科学研究所安全管理センター
	柴田 理尋	名古屋大学アイソトープ総合センター
	杉本 勇二	(株)イング名古屋支店
	森 厚文	金沢大学学際科学実験センター
	吉田 均	岐阜大学生命科学総合研究支援センター

近畿支部委員会

支 部 長	豊田 亘博	(株)千代田テクノル
委 員	赤木 清	関西医科大学
	垣下 典永	近畿大学ライフサイエンス研究所
	釜田 敏光	ポニー工業(株)
	倉橋 和義	京都大学放射性同位元素総合センター
	杉浦 紳之	近畿大学原子力研究所
	杉村 幸治	日本メジフィジックス(株)
	田中 実	(株)コーガアイソトープ
	村田 保	京都薬科大学R Iセンター
	安岡 由美	神戸薬科大学放射線管理室

中国・四国支部委員会

支 部 長	山田 雅夫	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
委 員	小野 俊朗	岡山大学自然生命科学研究支援センター
	北川 和英	広島大学原爆放射線医科学研究所
	成相 透	島根大学総合科学研究支援センター
	長谷川豊司	(株)大塚製薬工場栄養研究所R I室

九州支部委員会

支部長	松田 尚樹	長崎大学先導生命科学研究支援センター
委員	小野 孝二	大分県立病院
	佐藤 正	(株)千代田テクノル福岡営業所
	島崎 達也	熊本大学生命資源研究・支援センター
	高見 昇	福岡大学医学部R I施設

【本部組織】

企画委員会

部会の根幹を支え部会の事業および組織全般に関して、企画立案し、審議・推進する。

委員長	斎藤 直	大阪大学ラジオアイソトープ総合センター
委員	飯本 武志	東京大学大学院工学系研究科
	佐山 洋	弘前大学アイソトープ総合実験室
	庄司 美樹	富山大学生命科学先端研究センター
	杉原 真司	九州大学大学院理学研究院
	高淵 雅廣	大阪医科大学研究機構
	滝 剣朗	(独)理化学研究所筑波研究所
	中島 寛	広島大学自然科学研究支援開発センター
	野矢 洋一	北海道大学アイソトープ総合センター
	峯村 明彦	神奈川歯科大学研究支援センター

広報委員会

部会員相互のコミュニケーションと外部への広報活動を行い、部会員の資質向上と部会の地位向上に寄与する。

委員長	菊地 透	自治医科大学R Iセンター
委員	井上 浩義	久留米大学医学部
	大登 邦充	(株)千代田テクノル
	佐藤 和則	東北大学加齢医学研究所
	古田 悦子	お茶の水女子大学ラジオアイソトープ実験センター
	松田 陽介	新潟脳外科病院
	宮本 公隆	ファイザー(株)
	山口 一郎	国立保健医療科学院

法令検討委員会

放射線取扱主任者の立場から、法令に係る検討を行い、意見具申案を作成する。

委員長	宮越 順二	弘前大学医学部保健学科
委員	落合 節夫	(株)千代田テクノル
	桑原 均	(株)日立製作所情報制御システム事業部
	清水喜久雄	大阪大学ラジオアイソトープ総合センター
	古田 定昭	(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
	宮崎振一郎	関西電力(株)原燃サイクル室
	三好 弘一	徳島大学アイソトープ総合センター
	山本 英明	(独)日本原子力研究開発機構東海研究開発センター
	吉田 茂生	東海大学工学部

2.5 その他の委員会

Isotope News編集委員会		
Isotope Newsを編集、刊行する。		
委員長	柴田 徳思	(独)日本原子力研究開発機構量子ビーム応用研究部門
委員	海老原 充	首都大学東京都市教養学部
	岡田 淳一	成田赤十字病院放射線科
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	福喜多博義	国立がんセンター中央病院
	根井 充	(独)放射線医学総合研究所
	山口 一郎	国立保健医療科学院

RADIOISOTOPES編集委員会		
RADIOISOTOPESを編集、刊行する。		
委員長	富田 功	お茶の水女子大学名誉教授
副委員長	氏平 祐輔	東京大学名誉教授
委員	今泉 洋	新潟大学自然科学系(工学部)
	宇野 公一	西台クリニック
	小須田 茂	防衛医科大学校
	小林 慶規	(独)産業技術総合研究所
	杉浦 紳之	近畿大学原子力研究所
	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	野口 正安	(財)日本分析センター

出版企画委員会		
アイソトープ、放射線等の利用と安全管理に関する各種の参考図書、視聴覚教材の編集、刊行について、企画、調整を行う。		
(改組中)		

ICRP勧告翻訳検討委員会		
国際放射線防護委員会の諸勧告の日本語版の翻訳・刊行に係る検討を行う。		
委員長	松平 寛通	(財)放射線影響協会顧問
副委員長	浜田 達二	(社)日本アイソトープ協会
委員	石樽 信人	名古屋大学医学部
	甲斐 倫明	大分県立看護科学大学
	金子 正人	(財)放射線影響協会
	草間 朋子	大分県立看護科学大学
	酒井一夫	(独)放射線医学総合研究所
	佐々木康人	国際医療福祉大学
	丹羽 太貫	京都大学放射線生物研究センター
	米倉 義晴	(独)放射線医学総合研究所

講習会企画委員会

各講習会を企画、実施する。

委員長	河田 燕	(社)日本アイソトープ協会
委員	中西 友子	東京大学大学院農学生命科学研究科
	井尻 憲一	東京大学アイソトープ総合センター
	樋口 英雄	(財)日本分析センター
	瀧上 誠	元東京慈恵会医科大学
	小島 周二	東京理科大学薬学部
	上蓑 義朋	(独)理化学研究所

NMCC共同利用委員会（任期：平成16年10月～平成18年9月）

NMCCの全国共同利用を円滑に推進する。

委員長	小川 彰	岩手医科大学医学部
委員	石井 慶造	東北大学大学院工学研究科
	石川 和克	岩手県立大学看護学部
	伊藤 伸彦	北里大学獣医畜産学部
	岩田 錬	東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター
	江原 茂	岩手医科大学医学部
	織原彦之丞	東北工業大学工学部
	寺山 靖夫	岩手医科大学医学部
	野坂洋一郎	岩手医科大学医学部
	長瀧 重信	(社)日本アイソトープ協会

2.6 講演会・見学会等

2.6.1 理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会

月・日	会場、場所	演題、見学施設等
7・6	日本青年館	インフォーマルミーティング（理工学部会連絡会） 1 部会活動報告 （1）理工学部会の活動について （2）専門委員会報告 ・放射線防護機器専門委員会報告 ・超低レベル放射能測定専門委員会 ・中性子イメージング専門委員会 2 講演 「粒子線治療の半世紀」 平尾 泰男氏（(独)放射線医学総合研究所 顧問）
7・26 ～7・28	成蹊学園箱根寮	平成18年度サマースクール ーナノの世界から宇宙までー 「ナノと物性」 1 ナノプローブが広げる極微の世界ー陽電子技術の応用ー 2 陽電子の医療関係 3 陽電子、イオンビームを用いた材料分析 4 半導体のイオン注入 「細胞レベルでの放射線応答とその利用」 5 植物PET 6 放射線ホルミシスとは？ 7 低線量X線による肺転移がんの抑制 8 低線量放射線による免疫機能の調節 「宇宙の進化と宇宙における生体」 9 宇宙の始まり、ニュートリノ 10 宇宙メダカと重力生物学 11 γ 線による月・惑星表面の元素組成探査
8・26	浜離宮朝日ホール	講習会 第8回 ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取扱講習会 1 永久挿入療法開始までー放射線腫瘍医の立場からー 2 永久挿入療法実施までのあれこれ 3 退出基準とガイドラインの解説 4 早期死亡時の取り扱い経験から 5 治療技術 6 看護の実際 7 線源配置と線量評価 8 前立腺癌密封小線源永久挿入療法ーヨウ素125密封小線源治療ーの将来展望
9・1	(財)かずさDNA研究所	アイソトープ利用見学会 講演：植物バイオについて 見学：(財)かずさDNA研究所 バイオ共同研究開発センター

月・日	会場、場所	演題、見学施設等
10・16	浜松ホトニクス(株)	R & I 見学会 見学：浜松ホトニクス(株) 豊岡製作所 中央研究所、PETセンター
11・24	柏崎エネルギーホール	第5回R I新潟地区ネット 講演： 1 放射線を利用した物質科学研究 2 外した入れ歯は、どうして水の中に入れておくのか？ 見学：東京電力(株) 柏崎刈羽原子力発電所
12・1	国際研究交流会館(国立がんセンター内)	講習会 第9回 高線量率ラルス医療安全取扱講習会 1 医療安全とヒューマンファクター 2 HDR ^{192}Ir ラルス(マイクロセレクトロン)の保守契約とQA項目 3 ^{192}Ir -RALSの線源強度測定と安全取扱い 4 ^{60}Co ・ ^{192}Ir 線源選択型ラルス(マルチソース)の特性と安全取扱い 5 治療用密封線源供給の現状について 6 乳癌組織内照射と婦人科腔内照射の安全対策について 7 前立腺癌HDR組織内照射の適応と留意点 8 前立腺がん ^{125}I 永久挿入療法の実際 9 子宮頸癌腔内照射のコツと問題点 10 小線源治療の事故調査報告とイリジウムラルスの医療経済 11 子宮頸がん腔内照射を受けた患者の看護
2・3	マツダホール	講習会 第9回 ヨウ素125シード線源による前立腺癌永久挿入密封小線源治療の安全取扱講習会 1 永久挿入療法開始までー泌尿器科医の立場からー 2 永久挿入療法のあれこれ 3 退出基準とガイドラインの解説 4 早期死亡時の取り扱い経験から 5 治療技術 6 看護の実際 7 線源配置と線量評価 8 前立腺癌密封小線源永久挿入療法ーヨウ素125密封小線源治療ーの将来展望
2・26	立命館大学 びわこ・くさつ キャンパス	R & I 見学会 見学：立命館大学SR(放射光)センター マイクロシステム技術研究センター 講演：立命館大学におけるシンクロトロン放射光マイクロリソグラフィ技術

2.6.2 放射線取扱主任者部会

(1) 平成18年度主任者部会年次大会（第47回放射線管理研修会）

月・日	会場、場所	演題等
11・9 ～10	長崎ブリック ホール	部会総会 部会の活動報告・活動計画 特別講演1（文部科学省） 放射線安全行政について 特別講演2 新超重113番元素の合成 特別講演3 WHOの放射線安全プロジェクト セッション1 改正放射線障害防止法施行から1年－運用状況はどの ようになっているか セッション2 放射線教育－社会における主任者の役割 セッション3 放射線安全管理技術のフロンティア ポスター発表 34題 分科会 <ul style="list-style-type: none"> ・PET施設管理研究会 ・教育訓練問題検討分科会 ・選任主任者分科会 ・放射線計測分科会 ・立入検査分科会

(2) 研修会、勉強会及び法定の教育訓練講習会等

○北海道支部

月・日	会場、場所	演題等
4・28	北海道大学学術交 流会館第1会議室	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
6・3	北海道大学大学院 工学研究科	平成18年度原子力オープンスクール（日本原子力学会北海道支部 と共催）
2・2	北海道大学アイソ トープ総合センター	講演会（北海道地区大学等放射線施設協議会、北海道大学アイソ トープ総合センターと共催）

○東北支部

月・日	会場、場所	演題等
5・12	宮城県民会館	教育訓練講習会（新規教育・再教育）（東北放射線科学センター と共催）
2・22	仙台市情報・産業 プラザ	放射線管理実務セミナー（東北放射線科学センター、大学等放射 線施設協議会と共催）

○関東支部

月・日	会場、場所	演題等
4・19	アルカディア市ヶ谷	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅰ （新規教育・再教育）
5・11	アルカディア市ヶ谷	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅱ （新規教育・再教育）
5・16	アルカディア市ヶ谷	教育訓練講習会－密封線源・認証機器の安全取扱 （新規教育・再教育）
9・25	アルカディア市ヶ谷	教育訓練講習会－ラジオアイソトープの安全取扱Ⅲ （新規教育・再教育）

月・日	会場、場所	演題等
5・19	名古屋商工会議所	第18回教育訓練講習会（新規教育・再教育）（中部原子力懇談会と共催）
10・16	浜松ホトニクス(株)	見学会・第21回支部交流会（理工学部会と共催）
1・26	東桜会館	研修会・第22回支部交流会

○近畿支部

月・日	会場、場所	演題等
5・24	大阪大学中之島センター	教育訓練講習会Ⅰ（新規教育・再教育）
10・25	京都大学放射性同位元素総合センター	教育訓練講習会Ⅱ（新規教育・再教育）

○中国・四国支部

月・日	会場、場所	演題等
5・12	メルパルク岡山	教育訓練講習会（新規教育・再教育）
10・13	ピュアリティまきび	第13回中国・四国支部主任者研修会・情報交換会

○九州支部

月・日	会場、場所	演題等
5・8	福岡リーセントホテル	教育訓練講習会（新規教育・再教育）

(3) 講師派遣

42事業所等からの依頼を受けて法定教育訓練の講師を派遣した。

2.6.3 NMCC共同利用委員会

第13回NMCC共同利用研究成果発表会

会 期	平成18年5月19日～20日
会 場	岩手医科大学附属循環器医療センター
特 別 講 演	「PIXE法による大気エアロゾルの元素分析」 齊 藤 勝 美（秋田県環境センタ
発 表 演 題	49件（PET：9件、PIXE：30件、特別共同利用：6件、薬剤・基礎4件
参 加 者	101名
報 文 集	NMCC共同利用研究成果報文集13(2005) CD-ROM版

3. 第43回アイソトープ・放射線研究発表会

会 期	平成18年 7月 5日～ 7日
会 場	日本青年館
主 催	日本アイソトープ協会
共催学協会	61学・協会
特 別 講 演	・「安定同位体標識法（NBS法）によるプロテオーム解析」 ・「航空機内宇宙線被ばくに関する動向と課題」 ・「陽子線がん治療の進歩」 ・「量子ビームの相補的利用研究の展開」 ・「J-PARCにおける次世代中性子利用技術の展望」
パネ ル 討 論	・「Current and Future of PET in China, Japan and Korea —Utilization of PET for Medical Diagnosis—」 ・「非密封アイソトープによる治療」 ・「電子線の工業利用最前線」 ・「極低温放射線センサーの開発現状と将来展望」 ・「社会的視点から放射線教育を考える」
研究発表件数	184件（口頭発表：154件、ポスター発表：30件）
要 旨 集	第43回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集
参加登録者数	492名

(第43回アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会)

4. CJK Congress (中・日・韓アイソトープ協会会議)

7月4日 セッションA、セッションB、協定調印（東京ドームホテル）

セッションA ジョイントコンベンション

Topic: Current Situation and Problems

セッションB プレゼンテーション

Topic B-1: History of Utilization of PET in China, Japan and Korea

Topic B-2: Status for Radiation Technology (RT) for Industrial Use

Topic B-3: Revision of Agreement

協定調印 “Agreement for Cooperation in the Area of the Enhancement of Radiation and Radioisotope Utilization among China Isotope & Radiation Association, Japan Radioisotope Association, and Korea Radioisotope Association ”

7月5日 セッションC、セッション D（日本青年館）

セッションC パネル討論（第43回アイソトープ・放射線研究発表会と共催）

Topic: Current and Future of PET in China, Japan and Korea -Utilization of PET for Medical Diagnosis-

セッション D プレゼンテーション

Topic D-1: Status of Production and Utilization of Radioisotopes in China, Japan and Korea

Topic D-2: Status of Food Irradiation in China, Japan and Korea

Topic D-3: Conservation of the Environment by Radiation in China, Japan and Korea

7月6日 テクニカルツアー

(株)第一ラジオアイソトープ研究所（千葉）、理化学研究所横浜研究所（横浜）

7月7日 テクニカルツアー

理化学研究所RIビームファクトリ（和光）、J-PARCセンター（東海）

5. 講習会

5.1 文部科学省・厚生労働省登録講習

5.1.1 第一種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第251回	平成17年 4月 4日 ～ 4月 8日	32名	32名
第252回	平成17年 4月18日 ～ 4月22日	32名	32名
第253回	平成17年 6月27日 ～ 7月 1日	31名	31名
第254回	平成17年 7月11日 ～ 7月15日	31名	31名
第255回	平成17年 9月12日 ～ 9月16日	32名	32名
第256回	平成17年 9月26日 ～ 9月30日	30名	30名
第257回	平成17年10月17日 ～ 10月21日	31名	31名
第258回	平成17年11月14日 ～ 11月18日	32名	32名
第259回	平成17年11月28日 ～ 12月 2日	32名	32名
第260回	平成17年12月12日 ～ 12月16日	32名	32名
第261回	平成18年 1月23日 ～ 1月27日	32名	32名
第262回	平成18年 2月 6日 ～ 2月10日	32名	32名
第263回	平成18年 2月20日 ～ 2月24日	32名	32名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第2項に定める講習

対象 第一種放射線取扱主任者試験合格者で18歳以上の者

講習内容 (1) 放射線の基本的な安全管理に関する課目
 (2) 放射性同位元素及び放射性同位元素によって汚染された物並びに放射線発生装置の取扱いの実務に関する課目
 (3) 使用施設等及び廃棄物詰替施設の安全管理の実務に関する課目
 (4) 放射線の量及び放射性同位元素による汚染の状況の測定の実務に関する課目
 (5) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

5.1.2 第三種放射線取扱主任者講習

回	会 期	受講者数	修了者数
第1回	平成18年 3月 7日 ～ 3月 8日	31名	31名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第35条第4項に定める講習

対象 18歳以上の者

講習内容 (1) 法に関する課目
 (2) 放射線及び放射性同位元素の概論
 (3) 放射線の人体に与える影響に関する課目
 (4) 放射線の基本的な安全管理に関する課目
 (5) 放射線の量の測定及びその実務に関する課目
 (6) 修了試験

会 場 協会会議室及び実習室

5.1.3 放射線取扱主任者定期講習

回	開催地	開催日	受講者数	修了者数
使第0501回	文京グリーンコート (東京都文京区)	平成18年 1月17日	46名	46名
販第0501回			0名	0名
使第0502回	研究交流センター (茨城県つくば市)	平成18年 2月20日	38名	38名
販第0502回			1名	1名
使第0503回	名古屋商工会議所 (愛知県名古屋市)	平成18年 2月24日	39名	39名
販第0503回			0名	0名
使第0504回	北海道大学アイソトープ 総合センター (北海道札幌市)	平成18年 3月 1日	22名	22名
販第0504回			0名	0名
使第0505回	福岡リーセントホテル (福岡県福岡市)	平成18年 3月 6日	37名	37名
販第0505回			0名	0名
使第0506回	大阪大学中之島センター (大阪府大阪市)	平成18年 3月15日	36名	36名
販第0506回			0名	0名
使第0507回	研修センター労済会館 (石川県金沢市)	平成18年 3月24日	33名	33名
販第0507回			0名	0名

備考：目的 「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」第36条の2に定める講習

- 対象 (1) 下記事業所等の選任された放射線取扱主任者
- ・許可届出使用者
 - ・届出販売業者、届出賃貸業者（表示付認証機器のみを販売又は賃貸する者及び放射性同位元素等の運搬及び運搬の委託を行わない者を除く）
- (2) 選任された放射線取扱主任者以外の者で本講習の受講を希望する者

- 講習内容 (1) 法に関する課目
- (2) 放射性同位元素等の事故の事例に関する課目
- (3) 放射性同位元素等の取扱いに関する課目
- (4) 使用施設等の安全管理に関する課目

会場 東京、大阪及び全国の各都市

5.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習 (厚生労働省登録)

回	会 期	受講者数	修了者数
第78回	平成17年 5月23日～ 5月24日	47名	46名
第79回	平成17年 9月 1日～ 9月 2日	35名	35名
第80回	平成17年10月31日～11月 1日	36名	36名
第81回	平成18年 1月12日～ 1月13日	36名	35名

備考：目的 「作業環境測定士法」第5条に定める講習

対象 第一種作業環境測定士試験合格者又は作業環境測定士法第14条第3項により試験の全科目免除者

講習内容 (1) 放射性物質取扱作業室の作業環境について行う分析の実務

会場 協会会議室及び実習室

5.1.4 第一種作業環境測定士（放射性物質）講習（厚生労働省登録）

回	会 期	受講者数	修了者数
第82回	平成18年 5月30日～ 5月31日	36名	35名
第83回	平成18年10月12日～10月13日	34名	34名
第84回	平成19年 1月11日～ 1月12日	36名	35名

備考：目的 「作業環境測定士法」第5条に定める講習
 対象 第一種作業環境測定士試験合格者又は作業環境測定士法第14条第3項により試験の全科目免除者
 講習内容 (1) 放射性物質取扱作業室の作業環境について行う分析の実務
 会場 協会会議室及び実習室

5.2 その他講習会

5.2.1 アイソトープ基礎技術入門講習会

回	会 期	受講者数	修了者数
第75回	平成18年 5月15日～ 5月19日	26名	26名

備考：目的 非密封アイソトープの安全取扱いにおいて必要な基礎入門的な知識及び実習を通じて安全取扱いの基本の習得
 対象 特に新人教育向け
 講習内容 講義：アイソトープの物理、化学、放射線管理測定技術、放射線障害防止法など
 実習：測定実習、化学実習、生化学実習
 会場 協会会議室及び実習室

5.2.2 ラジオアイソトープ安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第35回	平成18年 6月19日～ 6月23日	96名

備考：目的 非密封ラジオアイソトープを安全に取扱うために必要な知識の習得
 対象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法
 会場 食糧会館（麴町）

5.2.3 密封線源安全取扱講習会

回	会 期	受講者数
第48回	平成18年 6月 7日～ 6月10日	55名

備考：目的 密封線源を安全に取扱うために必要な知識の習得。
 対象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法
 会場 食糧会館（麴町）

5.2.4 第1種主任者育成講習会

回	会 期	受講者数
第12回	平成18年 7月26日～ 7月28日	40名

備考： 目 的 第1種放射線取扱主任者として要求されている知識の整理とまとめ
 対 象 非密封ラジオアイソトープ取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、
 技術者
 講習内容 物理学、化学、生物学、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害
 防止法
 会 場 協会会議室

5.2.5 第2種主任者育成講習会

回	会 期	受講者数
第12回	平成18年 7月24日～ 7月25日	40名

備考： 目 的 第2種放射線取扱主任者として要求されている知識の整理とまとめ
 対 象 密封線源取扱いについて基礎的な知識を有する研究者、技術者
 講習内容 アイソトープの基礎、放射線測定技術、放射線管理技術、放射線障害防止法
 会 場 協会会議室

5.3 放射線滅菌等に関する研修

目 的 放射線滅菌等に関する微生物の取扱技術の習得
 対 象 医療機器の滅菌に関する微生物試験の技術者

5.3.1 微生物取扱技術基本コース

コース名	会 期	受講者数
微生物取扱基礎技術 (G1)	平成18年 6月26日～ 6月30日	1名
医療機器等のバイオバーデン 測定法 (G2)	平成18年 9月 4日～ 9月 8日	1名
	平成18年10月30日～11月 3日	1名
	平成18年12月 4日～12月 8日	1名

6. 図書等の発行

6.1 機関誌

6.1.1 Isotope News (広報誌) (No. 624~635) (Isotope News 編集委員会)

6.1.2 RADIOISOTOPES (学術誌) (Vol. 55 No. 4~Vol. 56 No. 3) (RADIOISOTOPES 編集委員会)

総説一覧

巻(号)	年 月	表 題	著 者
55(5)	06・ 5	脳機能画像による“こころ”へのアプローチ	松田博史
55(6)	06・ 6	放射線育種場の最近の成果と今後の発展	中川 仁
55(10)	06・10	放射性クロム酸ナトリウムを用いた循環赤血球量、循環血液量測定とその臨床応用	林 克己, 他
56(3)	07・ 3	東アジアの大気中 ²¹⁰ Pb濃度と長距離輸送による日本列島への影響 (英文)	土井妙子, 他

講座一覧

巻(号)	年 月	表 題	著 者
55(4)	06・ 4	“放射線作業環境における線量当量率及び放射性物質濃度測定の実状” I. 人事院規則から電離放射線障害防止規則へ (国立大学等の法人化に対応して)	野村貴美
55(4)	06・ 4	II. 作業環境測定の実状と測定法	一見芳明
55(5)	06・ 5	III. 放射線作業環境用測定機器	松原昌平
55(5)	06・ 5	“マイクロビームの生物・ライフサイエンス研究への応用” 序文	古澤佳也, 湯川雅枝
55(5)	06・ 5	I. 細胞局部照射実験の歴史と粒子線マイクロビームのマイクロサージャリへの応用	小林泰彦
55(6)	06・ 6	II. 粒子線マイクロビームで誘導される生物効果のバイスタンダー効果	鈴木雅雄
55(7)	06・ 7	III. Micro PIXE cameraを使用した微量元素動態 (Ca, Fe) による放射線喚起性アポトーシスの検出	原田 聡, 他
55(8)	06・ 8	IV. マイクロビームを用いたイメージング技術	石井慶造
55(9)	06・ 9	V. 放射光X線マイクロビーム照射装置を用いた低線量生物影響研究	宇佐美徳子, 他
56(3)	07・ 3	“非密封アイソトープによる治療” I. 甲状腺癌の放射性ヨード (放射性ヨウ素) ¹³¹ I内用療法	絹谷清剛

連載講座一覧

巻(号)	年 月	表 題	著 者
55(4)	06・ 4	“超低レベル放射能測定の実状と展望” (序文) 連載講座をはじめににあたって	小村和久
55(4)	06・ 4	(第1回) 低レベル・超低レベル放射能測定の基本	小村和久
55(5)	06・ 5	(第2回) 地下測定室紹介と超低レベル放射能測定による最近の成果	小村和久
55(6)	06・ 6	(第3回) 環境放射能モニタリングの実状	太田裕二
55(7)	06・ 7	(第4回) 大気と海洋深層における核実験起源フォールアウトの超低レベル放射能測定	青山道夫
55(8)	06・ 8	(第5回) 超低レベル ¹⁴ C, ⁷ Be放射能測定による過去の宇宙線強度変動の検出	櫻井敬久
55(9)	06・ 9	(第6回) 核不拡散のための極微量核種分析	篠原伸夫
55(10)	06・10	(第7回) 質量分析装置を用いた環境試料中の放射性核種分析の実状	大塚良仁
55(11)	06・11	(第8回) 「超低レベル放射能測定の実状と展望」まとめ	小村和久
55(11)	06・11	(第9回) Ge検出器の使用状況に関するアンケート報告	理工学部会超低レベル放射能測定専門委員会

6.2 出版物等

① やさしい放射線とアイソトープ (4版)	A5判	125ページ	1,050円
② アイソトープ・放射線利用入門ー最近の進歩を中心にー	B5判	83ページ	1,050円
③ [ビデオ] 見て納得 放射線障害防止法入門	DVD版他	60分	119,700円
④ 第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例 [第48回]	B5判	28ページ	493円
⑤ 放射線取扱の基礎ー第1種放射線取扱主任者試験の要点 (5版)	A5判	567ページ	4,200円
⑥ 密封線源の基礎ー第2種・第3種放射線取扱主任者のために (4版)	A5判	407ページ	3,360円
⑦ 第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例 [第51回]	B5判	64ページ	724円
⑧ ICRP Publ. 93 デジタルラジオロジーにおける患者線量の管理	B5判	63ページ	3,465円

7. 受託研究等

7.1 受託研究

7.1.1 文部科学省原子力利用安全対策等委託業務 放射線源登録に係る技術的課題等に関する調査

7.2 受託試験

7.2.1 放射線照射

医療機器バリデーションのための監査線量照射及び分布試験照射を96件実施した。

7.2.2 微生物試験

医療機器等の滅菌バリデーションに関する微生物試験を97件実施した。

8. 共同利用

8.1 仁科記念サイクロトロンセンター共同利用

	研究課題	割当回数	利用実績	
	(件)	(回)	(回)	(時間)
P E T	9	86	77	231
P I X E	34	155	230	795
薬剤合成	1	2	7	21
その他	1	6	3	9
合計	45	249	317	1,056

(患者 87人)

※平成18年度は前期のみの集計。後期は改修工事のため共同利用は一時停止。

8.2 甲賀研究所放射線照射施設共同利用

共同利用照射サービスを20課題、116件実施した。

9. 普及・啓発

9.1 第10回（2006年）RADIOISOTOPES誌論文奨励賞 受賞者 15名（12論文）

9.2 滝沢研究所

9.2.1 第16回滝沢研究所施設公開

日 時 9月10日（日） 10:00～14:00
イベント 施設見学会、講演会、健康相談等
参加者 約1,144名

9.2.2 武見記念館

展示内容 現代医学展示
身のまわりのアイソトープ・放射線展示
人工臓器ロボット
武見太郎先生日本医師会会長在職中備品
開館時間 10:00～16:00
(土・日・祝祭日、創立記念日(5月1日)、年末年始(12月29日～1月3日)を除く)
来館者数 281名（滝沢研究所施設公開日を除く）

9.2.3 滝沢研究所研究助成金

平成18年度は実施せず。

9.3 甲賀研究所

9.3.1 施設見学

年間を通じ、放射線滅菌時の技術相談や工場見学等で30名の施設見学があった。

9.4 第47回「科学技術週間」施設公開

日 時 4月17日（月）～ 4月21日（金）
茅記念滝沢研究所（医療RI廃棄物処理施設）
仁科記念サイクロトロンセンター（サイクロトロン、PET、PIXEなどの施設）
武見記念館（現代医学およびRI利用に関する展示）
甲賀研究所（ ^{60}Co γ 線照射施設）

9.5 第43回「原子力の日」施設公開

日 時 10月23日（月）～ 10月27日（金）
甲賀研究所（ ^{60}Co γ 線照射施設）

10. 図書室の活動

10.1 新規収蔵図書

図 書 名	出 版 元
第50回第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例 第50回 平成17年8月24日、25日実施	(社)日本アイソトープ協会
第47回第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例 第47回 平成17年8月26日 実施	(社)日本アイソトープ協会
平成17年度 原子力白書	(独)国立印刷局
利波紀久教授 業績集	金沢大学大学院医学研究科バイオトレーサー診療学講座(核医学)利波紀久教授退職記念事業会
NCRP REPORT No. 151 Structural Shielding Design and Evaluation for Megavoltage X- and Gamma-Ray Radiotherapy Facilities	NCRP
第46回 第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例 (第46回 平成13年8月22、23日実施)	(社)日本アイソトープ協会
放射線・アイソトープを取り扱う前に-教育訓練テキスト-	(社)日本アイソトープ協会
ICRU REPORT 74 Patient Dosimetry for X Rays used in Medical Imaging	Oxford University Press
NCRP COMMENTARY No. 19 KEY ELEMENTS OF PREPARING EMERGENCY RESPONDERS FOR NUCLEAR AND RADIOLOGICAL TERRORISM	NCRP
3版 密封線源の基礎 【第2種・第3種放射線取扱主任者のために】	(社)日本アイソトープ協会
「安全」のためのリスク学入門	昭和堂
現代放射化学	化学同人
4版 やさしい放射線とアイソトープ	(社)日本アイソトープ協会
Annals of the ICRP ICRP Publication 97 Prevention of High-dose-rate Brachytherapy Accidents	ELSEVIER
医療安全学-医療事故防止と最適な放射線診療業務のために-	医療科学社
画像診断の御法度 それでいいの?	秀潤社
Competency Assessments for Nuclear Industry Personal	IAEA
Annals of the ICRP ICRP Publication 98 Radiation Safety Aspects of Brachytherapy for Prostate Cancer using Permanently Implanted Sources	ELSEVIER

図 書 名	出 版 元
Annals of the ICRP ICRP Publication 96 Protecting People against Radiation Exposure in the Event of a Radiological Attack	ELSEVIER
Annals of the ICRP ICRP Publication 95 Doses to Infants from Ingestion of Radionuclides in Mothers' Milk	ELSEVIER
ウラン・娘核種環境パラメータ	(財)原子力環境整備促進・資金管理センター
Annals of the ICRP ICRP Publication 99 Low-dose Extrapolation of Radiation-related Cancer Risk	ELSEVIER
ISRE98 PROCEEDINGS OF INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON RADIATION EDUCATION	日本原子力研究所
ポジトロン断層撮影[PET]技術マニュアル	日本核医学技術学会
新しい高校化学の教科書 現代人のための高校理科	講談社
地球化学講座5 生物地球化学	培風館
放射線関係法規概説-医療分野も含めて-	通商産業研究社
放射線化学のすすめ-電子、イオン、光のビーム がくらしを変える、産業をつくる-	学会出版センター
宇宙旅行ガイド-140億光年の旅-	丸善
アイソトープ・放射線利用入門 最近の進歩を中心に	(社)日本アイソトープ協会
遺伝子組み換え食品 その不安と誤解	青土社
仁科芳雄博士記念講演会 「原子を見る・つかむ・冷やす」 ＜講演録 第10巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
仁科芳雄博士記念講演会 「半導体研究と独創性」 ＜講演録 第8巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
仁科芳雄博士記念講演会 「精神と物質-素粒子とは何かを考える」 ＜講演録 第11巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
原子力年鑑2006年版	(社)日本原子力産業会議
仁科芳雄博士記念講演会 「ニュートリノ天文学の誕生」 ＜講演録 第12巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）

図 書 名	出 版 元
仁科芳雄博士記念講演会 「現代の物質感・・・クォークが拓いた道」 ＜講演録 第13巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
全国大学職員録（国公立大学編・私立大学編） 平成17年度版	廣潤社
考古学のための年代測定学入門	古今書院
病院管理者必携放射線危機管理マニュアル	医療科学社
仁科芳雄博士記念講演会 ＜講演録 第15巻＞ 「全部の遺伝子が一冊の本になる」-遺伝子百科 事典プログラムからDNAブックへ- 「ゲノム解明の意義と方法及び現状」	科学振興仁科財団（仁科会館）
極限状態を見る放射光アナリシス 日本分光学会 測定法シリーズ40	学芸出版センター
ポピュラー・サイエンス238 医療最前線で活躍する物理	裳華房
高田 純の放射線防護学入門シリーズ 核災害に対する放射線防護 実践放射線防護学入門	医療科学社
核災害からの復興 広島、チェルノブイリ、ロンゲラップ環礁の調査 から	医療科学社
医療過誤 そのパラダイム	医療科学社
医療に活かす癒し術 コ・メディカルのための医療心理入門	医療科学社
臨床医のためのクリニカルPET	(株)寺田国際事務所/先端医療技術事務所
最新放射線障害防止法令集	(財)原子力安全技術センター 放射線障害防 止法令集編集委員会
仁科芳雄博士記念講演会 「プラズマと私」 ＜講演録 第14巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
仁科芳雄博士記念講演会 「相対性理論入門」 ＜講演録 第7巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
自然科学の鑑賞 好奇心に駆られた研究者の知的 探索	丸善プラネット
仁科芳雄博士記念講演会 「光と計測と科学」 ＜講演録 第6巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
仁科芳雄博士記念講演会 「宇宙の誕生と素粒子の発生」 ＜講演録 第5巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）

図 書 名	出 版 元
仁科芳雄博士記念講演会 「21世紀の科学の流れ」 ＜講演録 第9巻＞	科学振興仁科財団（仁科会館）
原子力-自然に学び、自然を真似る-	ERC出版
放射線防護マニュアル -安全な放射線診断・治療を求めて-	日本医事新報社
放射線取扱者のための法令の話（改訂版）	（社）日本アイソトープ協会
科学技術関係法人要覧 平成18年版	（財）科学技術広報財団
ブックレット新潟大学40 ルミネッセンス（発光）で探る古代情報	新潟日報事業社
低線量放射線の健康影響	近畿大学出版局
シヨパン・リルゼンツイン・リュードベリ 放射化学	丸善株式会社
医療領域の放射線管理マニュアル*2006* - Q&A・医療関係法令-	医療放射線防護連絡協議会
ICRU REPORT 75 Sampling for Radionuclides in the Environment	Oxford University Press
プル子よ さらば プルトニウムとともに生きた男の闘いと挫折	新生出版
化学新シリーズ 太陽系の化学 -地球の成り立ちを理解するために-	裳華房
Handbook on Secondary Particle Production and Transport by High-Energy Heavy Ions	World Scientific Publishing Co.Pte.Ltd.
原子力施設運転管理年報 平成18年版（平成17年 度実績）	（独）原子力安全基盤機構
NCRP REPORT No. 152 Performance Assessment of Near-Surface Facilities for Disposal of Low-Level Radioactive Waste	NCRP
ナノテク用語百科	東京化学同人
ICRU REPORT 76 Measurement Quality Assurance for Ionizing Radiation Dosimetry	Oxford University Press
A Personal History of Nuclear Medicine	Springer
全国大学職員録（国公立大学編・私立大学編）平 成18年版	廣潤社
原子力年鑑2007	日刊工業新聞社
初級放射線	通商産業研究社

図 書 名	出 版 元
放射線概論 -第一種放射線試験受験用テキスト- 平成17年度改正法令対応改訂版	通商産業研究社
4版 放射線取扱の基礎【第1種放射線取扱主任者試験の要点】平成17年6月施行法令に対応	(社)日本アイソトープ協会
第45回 第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例 (第45回 平成12年8月23日、24日実施)	(社)日本アイソトープ協会
REASSESSMENT of the ATOMOC BOMB RADIATION DOSIMETRY IN HIROSHIMA AND NAGASAKI DOSIMETRY SYSTEM 2002(DS02) VOLUME 1	(財)放射線影響研究所
REASSESSMENT of the ATOMOC BOMB RADIATION DOSIMETRY IN HIROSHIMA AND NAGASAKI DOSIMETRY SYSTEM 2002(DS02) VOLUME 2	(財)放射線影響研究所
Use of Chlorofluorocarbons in Hydrology A Guidebook	IAEA
NCRP REPORT No. 153 Information Needed to Make Radiation Protection Recommendations for Space Missions Beyond Low-Earth Orbit	NCRP
「原子力・エネルギー」図面集 2007	(財)日本原子力文化振興財団
放射線取扱主任者試験問題集第1種	通商産業研究社
[診療画像検査法] 医用放射線物理学	医療科学社
日本のがん医療を問う NHKがん特別取材班	新潮社
基礎から学ぶ、医療技術者のための放射線物理学	医療科学社
飛躍の軌跡・核融合 新しい技術を生み出した人びとの経験	ERC出版
診療画像検査法 最新・X線CTの実践	医療科学社
IAEA PROCEEDINGS SERIES:Security of Radioactive Sources	IAEA
IAEA PROCEEDINGS SERIES:Safety and Security of Radioactive Sources:Towards a Global System for the Continuous Control of Sources throughout Their Life Cycle	IAEA
第48回第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例 第48回 平成18年8月25日 実施	(社)日本アイソトープ協会
5版 放射線取扱の基礎【第1種放射線取扱主任者試験の要点】	(社)日本アイソトープ協会

10.2 収蔵定期刊行物

図 書 名	出 版 元
INNERVISION	(株)インナービジョン
THE JOURNAL OF JASTRO	日本放射線腫瘍学会
医用標準線量	医療用標準線量研究会
温泉科学	日本温泉科学会
資源環境対策	(株)環境コミュニケーションズ
食品照射	日本食品照射研究協議会
地球科学	地学団体研究会
日本医学放射線学会雑誌	(社)日本医学放射線学会
日本医師会雑誌	(社)日本医師会
保健物理	日本保健物理学会
放射線生物研究	放射線生物研究会
ANNALS OF THE ICRP	ICRP
HEALTH PHYSICS	LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS
ISOTOPES IN ENVIRONMENTAL AND HEALTH STUDIES	TAYLOR & FRANCIS LTD.
NUCLEAR NEWS	THE AMERICAN NUCLEAR SOCIETY
Science & Technology Journal	(財)科学技術広報財団
学術月報	(独)日本学術振興会
環境と健康	(財)体質研究会
原子力eye	日刊工業新聞社
現代化学	(株)東京化学同人
APPLIED RADIATION AND ISOTOPES	ELSEVIER LTD.
JOURNAL OF LABELLED COMPOUNDS AND RADIOPHARMACEUTICALS	JOHN WILEY & SONS, LTD.
THE JOURNAL OF NUCLEAR MEDICINE	THE SOCIETY OF NUCLEAR MEDICINE, INC.
NUKLEARMEDIZIN	SCHATTAUER GMBH
RADIATION PROTECTION DOSIMETRY	OXFORD UNIVERSITY PRESS
RADIATION RESEARCH	THE RADIATION RESEARCH SOCIETY
RADIOLOGY	THE RADIOLOGICAL SOCIETY OF NORTHAMERICA
SEMINARS IN NUCLEAR MEDICINE	ELSEVIER INC.
THE BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY	THE BRITISH INSTITUTE OF RADIOLOGY
科学新聞	科学新聞社

(上記以外にも数種類の定期刊行物を収蔵しています。)

11. 事務局組織

学術部

学術課 TEL (03) 5395-8081 FAX (03) 5395-8053

- ・理工学部会、ライフサイエンス部会、医学・薬学部会、放射線取扱主任者部会事務局
- ・アイソトープ・放射線研究発表会事務局
- ・放射線取扱主任者定期講習【文部科学省登録】
- ・共催事務窓口
- ・図書室利用窓口

出版課 TEL (03) 5395-8082 FAX (03) 5395-8053

- ・Radioisotopes誌の編集・刊行
- ・Isotope News誌の編集・刊行
- ・単行本、ICRP刊行物、ビデオシリーズの編集・刊行
- ・輸送標識の頒布

研修課 TEL (03) 5395-8083 FAX (03) 5395-8053

- ・第1種放射線取扱主任者講習【文部科学省登録】
- ・第3種放射線取扱主任者講習【文部科学省登録】
- ・第1種作業環境測定士（放射性物質）講習【厚生労働省登録】
- ・アイソトープ基礎技術入門講習
- ・安全取扱・育成講習会
- ・その他講習会の事務窓口

滝沢研究所 TEL (019) 688-1811 FAX (019) 688-1813

- ・サイクロトロンのご共同利用（仁科記念サイクロトロンセンター）
（PIXE分析、PETの利用）
- ・RI利用、医学利用展示（武見記念館）

甲賀研究所 TEL (0748) 88-3121 FAX (0748) 88-3123

- ・放射線滅菌、放射線改質などの試験照射
- ・滅菌線量監査のための検定線量照射
- ・バリデーションに関する微生物試験
- ・微生物試験技術者の養成・訓練

資 料 部会活動の経過及び成果公表資料

1. 理工学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>RI装備機器調査専門委員会 〔昭和39年 4月～12月〕</p> <p>ラジオグラフィ専門委員会 〔昭和39年 4月～43年 3月〕</p>	<p>○利用状況および問題点のアンケート調査 * 「放射性同位元素装備機器利用状況調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 3(1965)</p> <p>○γ線ラジオグラフィ利用状況アンケート調査 * 「わが国におけるγ線ラジオグラフィの利用状況」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965)</p> <p>○感光材料の問題点検討 * 「ラジオグラフィにおける圧力効果による“フィルムむら”について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 14, No. 1(1965)</p> <p>○ガンマ線ラジオグラフィ検査基準の確立および^{192}Ir線源国産化の検討 日本原子力研究所、ラジオグラフィ使用事業所（8社）、照射機メーカー（4社）と数回にわたって試用共同実験 * 以上の成果として、「ガンマ線ラジオグラフィ露出計算尺」作製（昭和41年10月。昭和48年実用新案登録）、「ガンマ線透過撮影法」（昭和43年3月刊行(1968)）</p>
<p>文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕</p>	<p>○「RI理工学利用文献集」（昭和48年以前は「RI工業利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、理工学文献題目集および理工学文献紹介を掲載。</p>
<p>中性子水分計およびγ線密度計専門委員会 〔昭和40年 2月～44年 5月〕</p>	<p>○水分計、密度計の安定性に関する共同実験（14事業所が参加） * 「中性子水分計およびガンマ線密度計の安定性に関する共同実験結果」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 16, No. 2(1967)</p> <p>○土の密度と含水量測定におけるRI法と在来法の比較共同実験</p> <p>○中性子水分計およびガンマ線密度測定法マニュアルの検討（未完結）</p>
<p>オートラジオグラフィ専門委員会 〔昭和42年10月～45年 5月〕</p>	<p>○金属オートラジオグラフィにおける感光材料の解像力に関する共同実験 * 「理工学におけるオートラジオグラフィの最近の研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 1(1970)</p> <p>* 「放射性銀試験体を用いたマイクロオートラジオグラフィの分解能に関する研究」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 19, No. 11(1970)</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
線源専門委員会 〔昭和43年 5月～44年 3月〕	○各種密封線源について利用開発上の問題点，検査法等について検討
環境汚染物質の放射化分析に関する専門委員会 〔昭和46年 9月～49年11月〕	○技術上の問題点，利用促進のための当面および将来の体制整備等に関する検討 * 「環境汚染物質の放射化分析における諸問題」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975)
硫黄分析計専門委員会 〔昭和46年 9月～52年 9月〕	○硫黄分析計利用状況アンケート調査 石油中重金属の測定値に及ぼす影響に関する共同実験，硫黄分測定照合実験（参加20機関） * 「RI式硫黄分析計による重油試料測定上の問題点 1. 放射線透過式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 11(1975) * 「（同上）2. 放射線励起式硫黄分析計」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 24, No. 12(1975) * 「（同上）3. 照合試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 2(1976) * 「JIS K2285-1978 石油製品放射線透過式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定） * 「JIS K2286-1978 石油製品放射線励起式硫黄分試験方法」原案の作成（昭和56年3月制定）
流れの測定に関する専門委員会 〔昭和46年10月～49年 3月〕	○野外および各種工程における気体、液体、粉体の流れ・拡散の測定へのRI利用測定技術について検討 * 「表面水流れ測定へのアイソトープの利用」、 「化学反応装置内の流れの測定」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 25, No. 3(1976)
環境物質放射化分析専門委員会 〔昭和50年 1月～51年 1月〕	○利用状況アンケート調査 * 「放射化分析利用の手引き 環境調査と放射化分析ー」（昭和51年5月）を自治体公害調査部門等へ配布 * 「環境物質の調査における放射化分析の利用状況」 Isotope News誌、昭和50年12月号(1975)
環境物質放射化分析マニュアル作成検討専門委員会 〔昭和51年 7月～52年 9月〕	○上記2専門委員会の活動成果に基づき、環境試料の放射化分析技術に関する手引書の作成について予備的検討 * 「放射化分析による環境調査ー微量・多元素・同時分析の手法」（昭和54年3月刊行(1979)）
放射能標準体使用マニュアル作成専門委員会 〔昭和52年 2月～56年 7月〕	○各種の放射能標準体・標準線源の適正な使用に資する解説書の作成 * 「放射能標準体・標準線源とその使用法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 28, No. 3～12(1979)、 Vol. 29, No. 1(1980) 昭和56年5月単行書刊行(1981)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
利用機器専門委員会 〔昭和53年 6月～57年 5月〕	○放射性同位元素装備機器管理基準に関する調査 (科学技術庁委託) ＊「JIS Z4821 1981 密封放射線源」原案を作成 (昭和56年3月制定) ＊「RI装備機器・設計承認制度について」 Isotope News誌、昭和56年5月号(1981)
RI野外トレーサ利用専門委員会設立検討会 〔昭和58年 3月～ 9月〕	○RI野外トレーサ実験実施上の問題点を抽出し、野 外トレーサ利用促進のための専門委員会作業の要 否を明らかにし、専門委員会設置の要を報告
放射線防護機器専門委員会 〔昭和58年 6月～現在〕	○放射線防護機器に関する資料を収集・検討し、隔 年毎に「放射線防護用設備・機器ガイド」を編集 ・発行。 ＊「1982年版」(昭和57年発行) ＊「1984年版」(昭和59年発行) ＊「1986/87年版」(昭和61年発行) ＊「1988/89年版」(昭和63年発行) ＊「1990/91年版」(平成2年発行) ＊「1992/93年版」(平成4年発行) ＊「1994/95年版」(平成6年発行) ＊「1996/97年版」(平成8年発行) ＊「1998/99年版」(平成10年発行) ＊「2000/01年版」(平成12年発行) ＊「2002/03年版」(平成14年発行) ＊「2004/05年版」(平成16年発行) ＊「2006/07年版」(平成18年発行)
RI野外トレーサ実験調査委員会 〔昭和59年 4月～平成 2年 6月〕	○RI野外利用の実施を探るため、理工学、農学・生 物学の分野で実験の実現が望まれている代表的な モデルについて検討を行うとともに科学技術庁と 懇談、折衝。技術基準・安全基準の検討、アンケ ート調査の実施、講演会の開催 ＊「RI野外トレーサ利用アンケート集計結果報 告」 Isotope News誌、昭和62年5月号“あいそとぴ っく”(1987) ＊「放射性トレーサの野外・現場利用の歴史と現 状」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 4～6(1988) ＊「放射性トレーサの野外・現場利用推進上の問 題点」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 6(1990)
密封放射線源JIS改訂専門委員会 〔昭和60年 4月～12月〕	＊「JIS Z4821密封放射線源」(昭和56年3月制定) の見直し
原子力用語JIS改訂専門委員会 〔昭和61年 8月～平成 4年 5月〕	○日本工業規格「JIS Z4001原子力用語」の改訂に 当たり、「放射線・アイソトープ利用・防護」部 門の用語について調査検討。

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>理工分野における放射性廃棄物検討専門委員会 〔平成 3年 9月～ 6年 5月〕</p> <p>微弱アイソトープ利用技術専門委員会 〔平成 4年 6月～10年 5月〕</p> <p>放射性同位体等の産業利用専門委員会 〔平成 7年 8月～12年 5月〕</p> <p>放射線教育専門委員会 〔平成7年 8月～16年 5月〕</p> <p>量子ビーム専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕</p> <p>放射線イメージング専門委員会 〔平成12年 6月～平成18年 5月〕</p>	<p>* 「研究分野における放射性廃棄物の取扱い」 (平成6年5月刊行(1994))</p> <p>○微弱アイソトープ利用の促進と安全性の確保について調査・検討 * 「I A E A安全シリーズ No. 102、工業、医学、研究、教育分野におけるアイソトープの安全使用と規則に関する勧告の抄訳」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 3(1995) * 「微弱アイソトープの安全利用に関する調査研究報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 2～4(1999)</p> <p>○産業分野におけるRI利用技術の調査、許認可申請の標準化について検討を行った。 * 「RI・放射線の産業利用」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 46, No. 5～10(1997) * 「放射性同位体等の産業利用専門委員会報告書」 (平成12年5月)</p> <p>○放射線教育入門テキスト〔ライフサイエンス分野編〕を編集し、テスト版として発行。(平成10年3月) 放射線教育入門テキスト〔医学・臨床分野編〕を (平成11年1月) 編集し、テスト版として発行。</p> <p>○①新しい量子ビームの発生と利用②半導体プロセスや医療への放射線利用③量子ビーム利用に関する法規制の最適化等について検討を行うとともに、外部利用を受け付けるビーム利用施設の調査を行う。 * 「日本における研究用加速器施設の現状アンケートに関する中間報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 7(2003) * 「日本における研究用加速器施設の現状(2005)調査報告と量子ビーム利用の広がり」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 12(2005)</p> <p>○放射線イメージングの技術・学問内容について調査し、他のイメージング技術も参照しつつ、放射線イメージング技術の新しい方向について検討。 * 「放射線イメージング技術の最前線」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 10(2003)～ Vol. 53, No. 6(2004)</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
超低レベル放射能測定専門委員会 〔平成16年 9月～現在〕	○通常の放射線計測技術では測定が困難なあるいは検出が不可能な極微弱放射能の測定の重要性が増している現状を認識し、超低レベル放射能測定技術の発展と展望を探るために調査・検討を行う。 ＊超低レベル放射能測定の現状と展望 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 4～No. 11(2006)
中性子イメージング専門委員会 〔平成17年 9月～現在〕	○中性子ラジオグラフィの現状を認識し、その技術の発展と展望を探るための調査・検討を行う。
RI・放射線 一般向け教育実験ノート ワーキンググループ	○RI・放射線関係者以外の人達にRI・放射線、ひいては自然現象に対する理解を深めて貰うことに寄与するため、RI・放射線等に関する教育的実験についての情報を集め、取り纏めてIsotope News誌に掲載。このような実験を多くの場に取り入れてもらおう一助とする。 ＊「RI・放射線 一般向け教育実験ノート」 Isotope News誌、平成18年4月号(2006)～平成19年3月号(2007)

2. ライフサイエンス部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
文献専門委員会 〔昭和39年 4月～平成 4年 5月〕	○「RI農学・生物学利用文献集」（昭和55年2月までは「RI農学・生物学利用文献抄録集」）の編集を行い、RADIOISOTOPES誌に毎号、農学・生物学文献題目集および農学・生物学文献トピックスを掲載。
ラジオガスクロマトグラフィ専門委員会 〔昭和43年 3月～50年 9月〕	○農学・生物学分野におけるラジオガスクロマトグラフィに関する技術の利用開発、普及について調査、検討。
¹⁵ N専門委員会 〔昭和48年 9月～51年 2月〕	○内外の関係文献の調査と勉強会などを開催し、利用の知識・方法の普及を検討。 安定同位元素専門委員会へ発展的に改組。
安定同位元素専門委員会 〔昭和51年 3月～現在〕	○安定同位元素に関し、その研究・利用の全般的な推進に資する活動を行う。
微量R1の管理に関する専門委員会 〔昭和48年 9月～57年 5月〕	○生化学分野における微量RIの使用施設の在り方、排水処理の方法、貯蔵・保管の方法、固体廃棄物・有機廃液の処理等の可能性について検討。
遺伝子工学専門委員会 〔昭和61年10月～平成 4年 5月〕	○生物学関連の遺伝子工学分野におけるR1利用状況を調査 ＊「遺伝子工学実験講座」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 10～Vol. 38, No. 2, 4(1987～1989)。 合本し、「遺伝子工学実験 Strategy & Practice」として平成3年5月出版(1991)。
アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～現在〕	○RIをトレーサとして用いる研究用機器について、その原理、性能、特徴および適切な用途等の最新情報を収集し、公表した。 ＊「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 10～No. 12, Vol. 43, No. 1(1993～1994) ＊「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器(第二シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8～No. 12, Vol. 45, No. 1～No. 2(1995～1996) ＊「バイオサイエンスのためのアイソトープ測定機器(第三シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 11～No. 12, Vol. 48, No. 1～No. 5, No. 7～No. 9, No. 11～No. 12, Vol. 49, No. 1～No. 2, No. 10～No. 12, Vol. 50, No. 1～No. 2(1998～2001) 第一、第二シリーズの合本冊子を作成。 第三シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成14年2月)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>アイソトープトレーサ研究用機器専門委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p>	<p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器(第四シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 3～No. 6、 Vol. 53, No. 3、Vol. 54, No. 1～No. 2、No. 7～No. 8 (2003～2005) 第四シリーズを協会ホームページに掲載。 (平成17年9月)</p> <p>* 「ライフサイエンスのためのアイソトープ測定機器(第五シリーズ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 55, No. 6～No. 8(2006)、 Vol. 56, No. 3(2007)</p>
<p>分子生物学分野のRI取扱専門委員会 (平成8年6月より、「ライフサイエンス分野 のRI取扱専門委員会」に名称変更) 〔平成 4年 6月～平成14年 5月〕</p>	<p>○分子生物学分野(ライフサイエンス分野)におけるRI取扱上の諸問題について安全で円滑な利用を図るための調査、検討を行った。</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告」 Isotope New誌、平成6年9月号 “会員へのお知らせ”(1994)</p> <p>* 「分子生物学分野のRI取扱専門委員会報告ー「監督区域」設置の可能性を探るアンケートの結果ー」 会員へのお知らせ”(1995)</p> <p>* 「ライフサイエンスの話題」 Isotope News誌、平成15年2月号～5月号(2003)</p>
<p>薬学・薬理学研究専門委員会 〔平成 6年11月～現在〕</p>	<p>○薬学・薬理学研究分野におけるRI利用の問題点を調査した。</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告ー薬学・薬理学研究分野のRI取扱いに関するアンケート結果ー」 Isotope New誌、平成9年4月号 “会員へのお知らせ”(1997)</p> <p>* 「薬学・薬理学研究専門委員会報告ー薬学・薬理学研究分野における放射線・放射能計測法に関するアンケート結果ー」 Isotope New誌、平成11年11月号 “会員へのお知らせ”(1999)</p> <p>* 「R I計測のためのQ&A」 協会ホームページに掲載。(平成17年7月)(2005)</p>
<p>獣医核医学専門委員会 〔平成14年 6月～現在〕</p>	<p>○伴侶動物への核医学診療における諸問題の検討を行う。</p> <p>* 「獣医核医学専門委員会 中間報告書」 (平成15年9月2日)(2003)</p>
<p>食品照射専門委員会 〔平成14年 6月～現在〕</p>	<p>○食品照射についての内外の情報を集め、調査・検討を行う。</p>

3. 医学・薬学部会

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>インビトロテスト専門委員会 〔昭和46年 9月～現在〕</p>	<p>* 「RIインビトロ検査全国コントロールサーベイ」 (第1回～21回までRADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>* 「イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ」 (第22回より名称変更。RADIOISOTOPES誌に掲載)</p> <p>第1回 (1978年実施)、Vol. 29, No. 11 (1980) 第2回 (1979年実施)、Vol. 30, No. 1 (1981) 第3回 (1980年実施)、Vol. 31, No. 7 (1982) 第4回 (1982年実施)、Vol. 32, No. 6 (1983) 第5回 (1983年実施)、Vol. 32, No. 7, 8 (1983) 第6回 (1984年実施)、Vol. 34, No. 9 (1985) 第7回 (1985年実施)、Vol. 35, No. 10 (1986) 第8回 (1986年実施)、Vol. 36, No. 10 (1987) 第9回 (1987年実施)、Vol. 37, No. 11 (1988) 第10回 (1988年実施)、Vol. 38, No. 10 (1989) 第11回 (1989年実施)、Vol. 39, No. 10 (1990) 第12回 (1990年実施)、Vol. 40, No. 10 (1991) 第13回 (1991年実施)、Vol. 41, No. 11 (1992) 第14回 (1992年実施)、Vol. 42, No. 11 (1993) 第15回 (1993年実施)、Vol. 43, No. 10 (1994) 第16回 (1994年実施)、Vol. 44, No. 11 (1995) 第17回 (1995年実施)、Vol. 45, No. 11 (1996) 第18回 (1996年実施)、Vol. 46, No. 11 (1997) 第19回 (1997年実施)、Vol. 47, No. 11 (1998) 第20回 (1998年実施)、Vol. 48, No. 11 (1999) 第21回 (1999年実施)、Vol. 49, No. 10 (2000) 第22回 (2000年実施)、Vol. 50, No. 10 (2001) 第23回 (2001年実施)、Vol. 51, No. 10 (2002) 第24回 (2002年実施)、Vol. 52, No. 10 (2003) 第25回 (2003年実施)、Vol. 53, No. 10 (2004) 第26回 (2004年実施)、Vol. 54, No. 10 (2005) 第27回 (2005年実施)、Vol. 55, No. 10 (2006)</p> <p>* 「The Large “Kit-to-Kit” Variation in Insulin Radioimmunoassay is Mainly Due to Defference in Standard Concentration」 CHEMISTRY, Vol. 28, No. 12</p> <p>* 「An Inter- and Intra-laboratory Quality-Control Survey of Radioimmunoassay of Insulin, Thyroxin, Thyrotropin, Cortisol, Digoxin, Gastrin, β2-Microglobulin and IgE in Japan with Commercially Available Kits」 CHEMISTRY, Vol. 29, No. 8</p> <p>* 「RIインビトロ検査の現状と問題点」 Isotope News誌、1992年2～3月号</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射性医薬品安全性専門委員会 〔昭和50年10月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、16巻3号(1979) * 「第2回放射性医薬品副作用事例調査報告」 核医学、18巻3号(1981) * 「放射性医薬品副作用事例調査報告」 (第3報～27報まで『核医学』に掲載) 第3報(19巻7号(1982))、第4報(20巻4号(1983)) 第5報(21巻3号(1984))、第6報(22巻4号(1985)) 第7報(23巻4号(1986))、第8報(24巻4号(1987)) 第9報(25巻4号(1988))、第10報(26巻4号(1989)) 第11報(28巻3号(1991))、第12報(28巻4号(1991)) 第13報(29巻3号(1992))、第14報(30巻5号(1993)) 第15報(31巻3号(1994))、第16報(32巻6号(1995)) 第17報(33巻6号(1996))、第18報(34巻4号(1997)) 第19報(35巻3号(1998))、第20報(36巻3号(1999)) 第21報(37巻3号(2000))、第22報(38巻2号(2001)) 第23報(39巻1号(2002))、第24報(40巻1号(2003)) 第25報(41巻1号(2004))、第26報(42巻1号(2005)) 第27報(43巻1号(2006))、第28報(44巻1号(2007)) * 「放射性医薬品の副作用事例報告について —調査報告書における症例数と製薬会社が収集した 自発症例数との比較—」 核医学、43巻4号(2006)
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「シンチカメラ性能の定期点検に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 30, No. 7(1981) * 「キュリーメータの試験方法」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 4(1983) * 「Single Photon Emission Computed Tomography 装置の性能試験条件」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 3(1984) * 「核医学イメージングの規格化に関する勧告 (1984改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983) * 「SPECT像表示の規格化に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 8(1986) * 「核医学イメージングの規格化に関する勧告 (1987年第2次改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 2～3(1988) * 「核医学イメージングのための小児への放射性医薬品 投与量に関する勧告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 11(1988) * 「SPECT装置の回転軸ずれおよびイメージサイズ 変動に関する日常試験」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 2(1990) * 「核医学イメージング装置の保守点検に関する実 態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 3(1992)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング規格化専門委員会 〔昭和53年 1月～平成 8年 5月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「ガンマカメラによるデジタル画像の表示・記録に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 1(1994) * 「標準的な核医学イメージングプロトコール(1994年第3次改訂)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994) * 「日常臨床における心臓核医学検査の選択に関する試案」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 3(1996)
医療放射線管理問題専門委員会 〔昭和53年 1月～57年 7月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「平均使用数量の導入による 11C、13N、15O、18Fの1日最大使用数量の求め方」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 31, No. 7(1982)
核医学用語分類専門委員会 〔昭和53年 1月～59年11月〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「医療行為の国際分類(ICPM)コード利用による全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 32, No. 9(1983)
サイクロトロン核医学利用専門委員会 〔昭和56年 9月～現在〕	<ul style="list-style-type: none"> * 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床使用に関する指針：Ⅰ 院内サイクロトロン放射性薬剤に関する指針、Ⅱ 院内サイクロトロン放射性薬剤の臨床利用に関する指針、Ⅲ サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 34, No. 11(1985) * 「院内サイクロトロン放射性薬剤の前臨床段階における安全性の評価に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 35, No. 11(1986) * 「日本アイソトープ協会医学・薬学部サイクロトロン核医学利用専門委員会において成熟技術として認定された放射性薬剤の基準と臨床利用に関する指針(続報Ⅰ)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 37, No. 8(1988) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1990年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 40, No. 3(1991) * 「What is PET? “Q and A” -PETをよりよく理解するために- * PET装置の性能評価のための測定指針(1992年4月) * PET装置の性能評価のための測定指針(1994年6月改訂) RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 9(1994) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1994年改定)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 6(1995)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>サイクロトロン核医学利用専門委員会 (平成17年11月より、「ポジトロン核医学利用 専門委員会」に名称変更) 〔昭和56年 9月～現在〕</p> <p>核医学技術専門委員会 (平成6年6月～8年5月まで核医学技術小委員会 として核医学イメージング規格化専門委員会 に置かれる) 〔昭和59年 6月～平成 6年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定) 」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 48, No. 12(1999) * 「PET薬剤製造施設基準」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 49, No. 3(2000) * 「FDG-PET検査の臨床的有用性と医療経済効果に関する全国調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 49, No. 3(2000) * 「院内製造されたFDGを用いてPET検査を行うためのガイドライン」 核医学、38巻2号(2001) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定) 」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 50, No. 5(2001) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定) 」に関する解説 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 50, No. 5(2001) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準(2001年改定) 」に関する解説に関する参考資料 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 50, No. 5(2001) * 「サイクロトロン核医学利用専門委員会が成熟技術として認定した放射性薬剤の基準と臨床使用の指針(1999年改定追補) 」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 50, No. 7(2001) * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、2003年11月号 * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第2報」 Isotope News誌、2005年2月号 * 「院内製造されたFDGを用いたPET検査を行うためのガイドライン 第2版」 核医学、42巻4号(2005) * 「PET検査件数に関するアンケート調査報告 第3報」 Isotope News誌、2006年10月号 * 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査結果」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 36, No. 9(1987) * 「核医学検査室における機器及び施設等の安全管理に関するアンケート調査報告 第2報」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 39, No. 11(1990) * 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第3報」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 43, No. 3(1994) * 「キュリーメータの測定精度実態調査報告 」 RADIOISOTOPES誌、Vo1. 43, No. 8(1994)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
核医学イメージング・検査技術専門委員会 (平成8年より核医学イメージング規格化専門 委員会と核医学技術小委員会が合併した) [平成 8年 6月～現在]	* 「核医学検査室における機器等の安全管理に関するアンケート調査報告 第4報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 45, No. 12(1996) * 「核医学画像と形態画像 (CT/MRI) の重ね合わせの現状と普及に向けての提案」 Isotope News誌、1997年12月号 * 「デジタルガンマカメラおよびSPECT装置の定期点検」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 5(1998) * 「核医学の安全管理等に関するアンケート調査報告 第5報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 8(1999) * 「全身イメージングにおける適正スキャン速度に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 7(2002) * 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第6報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 51, No. 8(2002) * 「核医学紹介シリーズ」 (平成14年10月) * 「核医学検査における安全管理等に関するアンケート調査報告 第7報」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 54, No. 7(2005)
薬学専門委員会 (平成6年より「放射性医薬品専門委員会」に 名称変更) [昭和44年 6月～平成 6年]	* 「放射性医薬品の最近の話題 (RADIOISOTOPES誌講座合本)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 33, No. 1～7(1984) * 「放射性医薬品の安全取扱と管理」 JJSHP、Vol. 26, No. 12 (1990)
放射性医薬品専門委員会 [平成 6年 6月～現在]	* 「治療用放射性医薬品に関するアンケート調査報告」 Isotope News誌、1998年11月号 * 「標識キット方式による ^{99m} Tc放射性医薬品の調製について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 53, No. 3(2004) * 「薬による放射性医薬品の体内挙動の変化について」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 56, No. 1(2007)
放射線治療専門委員会 [昭和57年 6月～平成 4年 5月、 平成12年 6月～現在]	* 「密封小線源の管理 (RADIOISOTOPES誌講座合本)」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 36, No. 2～6(1987) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(初版・第二版) (2003) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(第三版) (2004) * 「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン」(第四版) (2005)

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
放射線治療委員会 〔平成 4年 6月～平成12年5月〕	*「高線量率R A L S安全取扱マニュアル」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 48, No. 10(1999)
核医学診療実態調査専門委員会 (平成8年より「全国核医学診療実態調査専門 委員会」に名称変更)	*「第2回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 38, No. 4(1989) *「第3回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 42, No. 9～10(1993)
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成 8年 6月～10年 5月〕	*「第4回全国核医学診療実態調査報告」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 47, No. 8(1998)
全国核医学診療実態調査専門委員会 〔平成13年 9月～16年 5月〕	*「第5回全国核医学診療実態調査報告書」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 52, No. 8(2003) *Nuclear medicine practice in Japan: A report of the 5th nationwide survey in 2002 Annals of Nuclear Medicine Vol. 18, No. 1
標識抗体医学利用専門委員会 〔昭和63年 4月～平成 3年 5月〕	*「医学研究施設内で作られたRI標識モノクロー ナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 39, No. 12(1990) 核医学、第28巻3号(1991) 日本医放会誌、第51巻5号(1991)
放射性医薬品施設内管理専門委員会 〔平成 1年10月～ 4年 5月〕	*「放射性医薬品の施設内取扱に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 41, No. 2(1992)
免疫核医学専門委員会 〔平成 5年 7月～ 8年 5月〕	*「遺伝子組換え技術を応用して作られたRI標識モ ノクローナル抗体の臨床利用に関する指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 43, No. 8(1994) *「RI標識モノクローナル抗体の臨床利用に関する 指針」 RADIOISOTOPES誌、Vol. 44, No. 8(1995)

4. 放射線取扱主任者部会

4.1 組織改正以前（昭和34年12月～平成 4年 5月）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>東京常任委員会 〔昭和34年12月～平成 4年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * Isotope News No. 68～382「主任者コーナー」の編集（1960. 4～1992. 5） * 「第1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第5～36回）Isotope News(1961～1992) * 「放射線施設の火災対策」（1961） * 「密封小線源の取扱」（1962） * 「個人外部被ばくモニタリングの手引き」（1964） * 「放射線管理実務マニュアルⅠ」（1983） * 「放射線施設の火災・地震対策」（1985） * 「外部被ばくモニタリング」（1986） * 「千葉県東方沖地震状況調査」 Isotope News 1988年8月号 * 「千葉県東方沖地震状況調査」 Radioisotopes 38, 2(1989) * 「改訂放射線管理実務マニュアルⅠ」（1989） * 「放射線障害防止教育訓練用OHPシート」（1991） * 「放射線管理実務マニュアルⅡ」（1991） * 「現行法令の課題」（1992）
<p>関西常任委員会 〔昭和36年 7月～平成 4年 5月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「第2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第1～33回）Isotope News(1961～1992) * 「放射線とアイソトープ」（1962）
<p>中部常任委員会 〔昭和55年 6月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>北海道地方委員 〔平成 2年 4月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>東北地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>九州地方委員 〔昭和57年11月～平成 4年 5月〕</p>	
<p>基盤整備委員会 〔平成 2年11月～平成 3年 3月〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成3年度主任者研修会（第32回部会総会）要旨集（補冊）」（1991） 基盤整備委員会報告書
<p>新体制移行委員会 〔平成 3年 9月～平成 4年 3月〕</p>	

4.2 組織改正以後（平成 4年 6月～現在）

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>【本部組織】 本部運営委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・企画委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・広報委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・法令検討委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・組織化推進委員会 〔平成 8年 6月～平成14年 5月〕</p> <p>・主任者部会－21世紀のあり方検討委員会 〔平成 8年11月～平成12年 5月〕</p>	<p>* 「平成 4 年度主任者研修会（第33回部会総会）要旨集」（1992）</p> <p>* 「21世紀の主任者部会活動に向けて」（1996）</p> <p>* ニューメディア教育訓練用教材CD-ROM試作版（1999年8月）</p> <p>* Isotope News No. 383～635 「主任者コーナー」の編集（1992. 6～2007. 3）</p> <p>* 「主任者ニュース」第 1 ～12号編集（1995～2006）</p> <p>* 「改訂 3 版 放射線管理実務マニュアル I」平成5年9月（1993）</p> <p>* 法令検討委員会報告（案）（現行法令の課題）（平成11年10月）</p> <p>* 法令検討委員会報告（現行法令の課題）平成12年度主任者年次大会要旨集, 2000, P. 223</p> <p>* 法令改正への対応に際してのQ & A（1） Isotope News, 2001, 6月号, P. 47</p> <p>* 法令改正への対応に際してのQ & A（2） Isotope News, 2001, 7月号, P. 50</p> <p>* Q & A：BSS免除レベルの取り入れで法令はどう変わるのか Isotope News, 2003, 11月号, P. 63</p> <p>* 法令検討委員会報告書「放射線取扱主任者のあり方について」 Isotope News, 2004, 7月号, P. 79</p> <p>* 改正法令に関するQ & A：放射線障害防止法及び関係政省令等の改正について Isotope News, 2005, 6月号, P. 45</p> <p>* 「事業主の責務と放射線取扱主任者のあり方について」 Isotope News, 2006, 4月号, P. 76</p> <p>* 「放射性同位元素使用施設等で発生する廃棄物のクリアランスについての現状」 Isotope News, 2006, 10月号, P. 11</p> <p>* 「選任放射線取扱主任者のアンケート調査」結果報告 Isotope News, 2000, 6月号, P. 53</p> <p>* 「組織化推進委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 7月号, P. 49</p> <p>* 「主任者部会・21世紀のあり方」中間報告書 平成11年度主任者年次大会要旨集, 1999, P. 135</p> <p>* 「主任者部会・21世紀のあり方」報告書 （平成11年11月）</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>・放射線管理技術検討委員会 〔平成10年 4月～平成14年 5月〕</p> <p>・製薬放射線委員会 〔平成10年 6月～平成12年 5月〕</p> <p>【 支部組織 】</p> <p>北海道支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・平成11年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>東北支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・平成 7年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>・平成16年度主任者部会年次大会実行委員会</p> <p>関東支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・第 1種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会</p> <p>・平成 8年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>・平成12年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>・平成15年度主任者部会年次大会実行委員会</p> <p>中部支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・第 2種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会</p> <p>・平成 5年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>・平成13年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>近畿支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <p>・第 2種放射線取扱主任者試験問題解答例作成委員会</p> <p>・平成 6年度主任者年次大会実行委員会</p> <p>・平成14年度主任者年次大会実行委員会</p>	<p>* 「放射線施設の遮蔽能力・放射性物質飛散率評価に関する調査研究（中間報告）」（1998）</p> <p>* 「放射線管理技術検討委員会活動報告」 Isotope News, 2002, 10月号, P. 63</p> <p>* 「ラジオアイソトープを用いた動物実験での文献調査—飛散率について—」 RADIOISOTOPES誌 Vol. 47, No. 11(1998)</p> <p>* 「北海道東方沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 79</p> <p>* 「平成11年度主任者年次大会（第40回主任者研修会）要旨集」（1999）</p> <p>* 「三陸はるか沖地震放射線施設状況調査」 Isotope News, 1995, 10月号, P. 74</p> <p>* 「平成 7年度主任者年次大会（第36回主任者研修会）要旨集」（1995）</p> <p>* 「平成16年度主任者部会年次大会（第45回放射線管理研修会）要旨集」（2004）</p> <p>* 「第 1種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第37～51回）Isotope News(1992～2007)</p> <p>* 「平成 8年度主任者年次大会（第37回主任者研修会）要旨集」（1996）</p> <p>* 「平成12年度主任者年次大会（第41回主任者研修会）要旨集」（2000）</p> <p>* 「平成15年度主任者部会年次大会（第44回放射線管理研修会）要旨集」（2003）</p> <p>* 「第 2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第35回）Isotope News 1993年 1号</p> <p>* 「平成 5年度主任者年次大会（第34回主任者研修会）要旨集」（1993）</p> <p>* 「平成13年度主任者年次大会（第42回主任者研修会）要旨集」（2001）</p> <p>* 「阪神・淡路大震災の被災施設状況調査および救援活動報告」Isotope News, 1995, 4～8月号</p> <p>* 「第 2種放射線取扱主任者試験問題と解答例」（第34, 36～48回）Isotope News(1992, 1994～2007)</p> <p>* 「平成 6年度主任者年次大会（第35回主任者研修会）要旨集」（1994）</p> <p>* 「平成14年度主任者年次大会（第43回主任者研修会）要旨集」（2002）</p>

専門委員会・〔活動期間〕	摘 要
<p>中国・四国支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 9 年度主任者年次大会実行委員会 ・平成17年度主任者部会年次大会実行委員会 <p>九州支部委員会 〔平成 4年 6月～現在〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成10年度主任者年次大会実行委員会 ・平成18年度主任者部会年次大会実行委員会 	<ul style="list-style-type: none"> * 「平成 9 年度主任者年次大会（第38回主任者研修会）要旨集」（1997） * 「平成17年度主任者部会年次大会（第46回放射線管理研修会）要旨集」（2005） <ul style="list-style-type: none"> * 「平成10年度主任者年次大会（第39回主任者研修会）要旨集」（1998） * 「平成18年度主任者部会年次大会（第47回放射線管理研修会）要旨集」（2006）

本資料の発行及び問い合わせ先
(社) 日本アイソトープ協会学術部
〒113-8941 東京都文京区本駒込2-28-45
TEL (03) 5395-8081 FAX (03) 5395-8053